

講義科目名（コース名）	入門ゼミ 18（英日翻訳入門 グループで学ぶ翻訳の理論と実践）
名前	石原知英

1. はじめに

本コラムでは、2010 年度春学期に開講された経営学部の入門ゼミ 18（英日翻訳入門：グループで学ぶ翻訳の理論と実践）における Moodle の利用状況を紹介する。そうすることで、私が感じた Moodle の利点や教育効果にも言及しようと考えている。

2. Moodle を利用した授業の紹介

この入門ゼミでは、「英日翻訳入門：グループで学ぶ翻訳の理論と実践」と銘打ち、映画字幕の作成に取り組んだ。

学期前半は、字幕翻訳についての講義を行い、そのルール（文字数の制限、句読点の処理など）や工夫（セリフの分割、非言語化など）についての理解を目指した。後半は演習形式により、実際に映画字幕を作る活動を行い、最終回の上映会を目指してグループごとの活動を行った。

映画は2 時間程度のものを7 分割し、各グループ（2、3 名）で15 分程度の字幕作成を担当した。最終回には総括として、各グループが作成した字幕入りの映画の上映会を行い、レポートの提出により評価を行った。

映像に字幕をのせるための方法にはいろいろな方法がある（詳しくは染谷，2009 を参照されたい）が、今回の授業では、も

っとも基本的で、特殊なソフトウェア等を必要としない、Windows Media Player とテキストエディタ（メモ帳）を用いた方法を採用した。その具体的な手順は、以下の通りである。

- (1) 素訳：Excel ファイルで英語セリフを配布し大まかに訳す
- (2) タイムスタンプ：映像を見ながら各セリフの発話開始・終了のタイミング、セリフの発話時間を計測
- (3) 各セリフの上限字幕文字数（1 秒4 文字）を計算
- (4) 制限文字数内で素訳を推敲
- (5) SAMI ファイルの作成
- (6) 字幕タイミングの微調整・確認

なお（5）の SAMI ファイルは、映像に同期して表示させたいキャプション情報を記述したものである（拡張子は .smi）。このファイルにより、フォントサイズや提示位置、セリフの表示時間等を制御することができる。

3. Moodle の利点

この授業の主眼は、主に後半のグループ活動による実際の字幕作成の中で、試行錯誤しながら、その難しさや面白さを体験することであった。そういう意味では、

Moodle 上に手順を示したファイルや、サンプル、映像などをあらかじめ準備しておくことで、各グループの進捗状況に合わせた取り組みが可能となった。また Moodle を利用することで、電子ファイルによる進捗状況の報告が容易となり、定期的に確認および対応することが可能となった。特に問題となるような誤訳の指摘などは、学生と教員の間での電子ファイルのやりとりにより個別に対応できたため、1つのグループに対応している間に他のグループが待っているという状況がある程度避けることができた。

ただし、アップロードすることができるファイルサイズに上限があったため、かなり圧縮したファイルでも、映像などのファイルは Moodle 上にあげることができず、その都度 CD-ROM などによって配布・回収する必要があった。

4. 今後の課題

この授業の最大の課題は、時間的な都合から、グループ間での活動を取り入れることができなかった点である。特に素訳の段

階で、英語の理解が難しく、時間をかけて正確な訳を目指したグループが多かったため、後半の推敲に十分な時間を割くことができなかった。本来ならば、Moodle のフォーラム機能などを用いて、比較的容易にクラス内でのコミュニケーションを取ることが可能となる。例えば作成途中でお互いに誤訳などを指摘しあったり、映画字幕の批評をしたりするなどの活動を取り入れることにより、より活動的なクラス運営が可能であった。この点は今後の課題として指摘しておきたい。

参考文献

染谷泰正. (2009). 「字幕付き動画の作成とウェブページの埋め込みに関するテクニカルノート」 [online] Retrieved April 2, 2010, from <http://www.someya-net.com/83-Subtitle Video/PDF/>



図1: 活動の手順を Moodle で指示する



図2: 完成した字幕と SAMI ファイル一例